

教育と文化

No.112

平成28年11月1日
 公益財団法人
 愛知教育文化振興会
 岡崎市明大寺町字馬場東62番地
 電話 0564-51-4819

「書き虫」から

「紡ぎだしコラボする虫」へ

公益財団法人愛知教育文化振興会 副理事長 水野達彦



教師になろうとは思ったが、得手にするものは何もない。生来の怠け者、不器用者で、英語、理科、技術を筆頭に、どの教科も苦手だった。消去法でいったら、国語しか残らなかった。で、今がある。

消去法の強みは、それを極めなければ、もう何も残らないという危機感に、日々揺り動かされることだ。だから、読書の虫になり、そのうち「書き虫」になった。若いころ出会った先輩に「書けない国語教師は不要」と言われた影響が大きい。そんな「書き虫」が、小中学生用の合

唱曲の作詞を始めて、もう二十余年が経つ。自分がプロデュースした国体開始式の集団演技のために、三人の作曲家と組んで、三曲を創った。

そのうちの一曲『不思議』が、CDに収められ、全国の中学校等で歌われるようになった。うれしかった。自分の紡ぎ出したことが、まず、作曲家のからだを動かし、メロディーを得て、さらに、子どもたちのからだを通って、彼らなりの表現となって再構築されることのおもしろさを味わった。その後二人で、片手では足りない合唱曲を編み出した。

しかし、そのパートナーが十年前に夭折。彼の葬儀の式場には、彼と創った何曲かが流れていて、私の胸はつぶれた。「先生、退職するまでに、いっぱい創りましょう」と彼に言われてうなずき、杯を酌み交わした日のことを思った。そして、それがかなわなくなったことを実感

した。
ところが、数年が経過して、また紡ぎ出す喜びを味わう機会に恵まれることとなった。ある小学校の校歌の作詞を依頼されたのだ。作曲は松井孝夫先生。『マイバード』『そのままの君で』を筆頭に小中学生のための合唱曲を世に送り出し、また、『旅立ちの日に』の編曲者としても名高い。

松井先生とは、若い頃、東京で行われた研究会で一緒させていただき、その後ご縁ができた。さらに現任校が、二十年来、生徒の詞に松井先生が曲をつけてくださっている学校という奇遇にも恵まれた。

松井先生と再会し、交信も復活。お手紙に綴られた松井先生の思いと自らの思いを重ねて、こんな詩を紡ぎ出した。

空の青さに手を届かせたいと願った日から／もうかれこれ何年が経つのだらう／叶わぬことに疲れ果てて／力が出しきれなくなつて途方に暮れた／あの日／あなたは真つ先に声をかけてくれた／色あせてしまった私のアルバムには／昔と変わらぬあなたの写真が収まっている／目をそらさないでいてくれて／ありがとう／いつも励ましてくれて／ありがとう／たとえばあなたは仲間／たとえばあなたはライバル／あなたは／あなたは／大切な人／あなたと喜び分かち合う／あなたと悲しみ分かち合う／分かち合う／分かち合う／あなたと気持ち／分かち合う（二番略）

ひと月も経たずして、すばらしいメロディーが届き、その後、混声三部合唱と

して仕上げてくださった。さらに、今夏、この歌を入れた組曲『命』を制作中との便りをいただき、完成を待ちわびているところだ。

たかがことば、されどことば。ネット上に限らず、ありとあらゆるところに、一人歩きするだけのことばがはびこっている。だが、コラボし、思いを分かち合う温かいことばのやりとりこそが、教育を支え、文化を支えるのだと、私は思う。

もくじ

巻頭言

「書き虫」から「紡ぎだしコラボする虫」へ 水野 達彦

三河教育への提言 水野 達彦
 明るく 元気で 楽しい学校が 一番！ 高本 訓久

三河の文化を訪ねて 中国史学の世界的な研究者 丸山 幸博
 刊行物とわたし 鈴木中正

国語の学習・冬休み日誌 教室の窓辺 平井さとみ・林 勝也
 平成二十九年年度刊行物の紹介 平成二十八年年度個人研究助成

研究成果報告書提出者の紹介 平成二十八年年度団体研究助成 刊行物を活用した授業

修学旅行のしおり 教育助成ボランティアグループ活動紹介

西尾・花ノ木小 新城・八名小 特色ある教育活動 豊川・桜木小

行事予定・編集後記